

和歌山県
古座川町

和歌山県南東部に位置し
町面積の約96%が森林
温暖多雨な気候で、清流
古座川と緑豊かな森林に
囲まれたまち

面積 294.23㎢　**世帯** 1,283世帯　**人口** 2,174人



古座川町の沿革

1956(昭和31)年3月31日に旧高池町、明神村、小川村、三尾川村、七川村が合併し、古座川町として町制を施行

包括連携協定

2015年6月29日締結

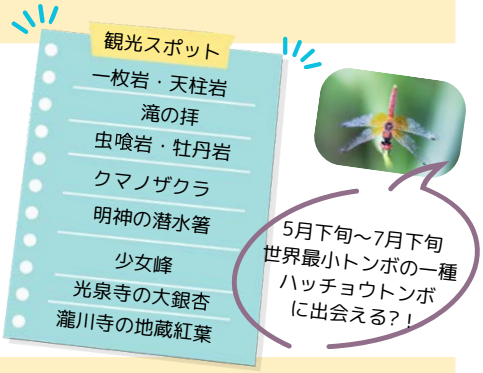
町内の教育機関

小学校：3校 (58名)　中学校：2校 (80名)
※ 括弧内は児童生徒数

2026年9月1日時点

見どころ

紀伊半島南部の最高峰大塔山を源とする清流・ 古座川のいたるところには、一枚岩や虫喰岩、牡丹岩、少女峰、飯盛岩、天柱岩など奇岩奇峰 の一群が顔を出し、古くより古座川峡として親しまれています。この巨岩・巨石群は、マグマが噴出してできた、古座川から那智勝浦町浦神にいたる、古座川弧状岩脈の一部で、隆起や風化を繰り返し、独特の風景を造りだしています。
清流・古座川の水は、まるで顕微鏡で覗いたかの様に、川底までくっきり見通せるほど、透明度が高く、国から特別天然記念物の指定を受けているオオサンショウウオが生息していることでも有名です。



イベント・レジャー

春は七川ダム湖畔に約3000本の桜が咲く古座川桜祭り、夏は古座川流域の５地区が担い手となって行われる河内祭、秋は高池神戸神社で火たき祭り（霜月祭）、11月下旬には光泉寺のイチョウライトアップや冬の味覚・ぼたん鍋が無料でふるまわれる古座川秋祭りなどが開催され、季節ごとに自然と一体になったイベントを楽しめます。七川ダム湖畔の桜は、日本桜百選のひとつに選ばれており、桜まつりの時期には、多くの花見客で賑わいます。また、古座川町は温泉源にも恵まれており、地域住民や観光客などに親しまれています。





人気のアクテビティ：カヌー、川釣り、サイクリング、トレッキング、キャンプ、花見、温泉・保養

特産品

柚子や梅などの果樹、千両に榊などの花木、イノシシ肉、シカ肉などのジビエ料理食材、川魚など、山の幸、川の幸に恵まれています。
アユ、うなぎ、柚子、梅、和蜜(日本ミツバチの蜂蜜)、ジビエ肉及びジビエ加工品



交通アクセス

南紀白浜空港～古座川町中心部まで車で約1時間10分
新大阪駅⇒古座駅(JR紀勢本線)：約4時間

宿泊

南紀月の瀬温泉 ぼたん荘
やまさき屋 旅館
くれあそび



ぼたん荘HP↑



やまさき屋HP↑



くれあそびHP↑

本学卒業生の町長誕生～
クマノザクラがつなぐ縁

和歌山県 KOZAGAWA 古座川町

本学卒業生が町長に就任したことを機に広がった交流

古座川町が位置する和歌山県熊野地方は、江戸時代後期に『熊野養蜂』の記録が残されているニホンミツバチ養蜂の発祥の地として知られており、2008(平成20)年に武田丈夫 氏(農学部72年卒)が町長に就任後、本学のミツバチ科学研究センターを訪問したことをきっかけに交流がスタートしました。2011(平成23)年、台風12号により、町の総世帯の37%の家屋が浸水する甚大な被害が発生した時には、台風以前に熊野古道を訪れたIBの生徒たちが、古座川町の方々に大変お世話になったことへの感謝の気持ちから、義援金を募り、礼拝基金とあわせて義援金をお届けしました。2015(平成27)年に、地域社会の発展と人材育成を目指した連携協定を締結し、以降も、様々な交流・連携活動が行われてきました。

＜過去の交流実績 例＞
・ミツバチの研究調査を蜂蜜の特産化に還元
・Kozagawa Adventure Program事業へ本学から教員(TAPセンター)を派遣
・子育て支援事業へ本学から教員を派遣
・玉川学園ハンドベルクワイヤによる公演
・英語教育推進事業の一環として古座川町職員が本学小学部を視察 / 本学から教員を派遣
・古座川町小学生が本学に来園　など





クマノザクラ・聖山への植樹

クマノザクラは、紀伊半島南部が原産で、2018(平成30)年に国内で約100年ぶりに新種と認定された日本のヤマザクラの固有種です。本学と包括協定を結んでいる古座川町から学友会和歌山支部を通して、2019(令和1)年から創立100周年を迎える2029年まで、毎年10本の苗木が贈呈されます。聖山に植樹された幼木は、着実に育っており、何年かたてば立派な花を開かせることになりそうです。ソメイヨシノより寿命が長いので長期間玉川の丘を彩ることが期待されます。

観光学部地域創生プロジェクト



2021(令和3)年10月に観光庁の事業で古座川町が採択された『地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業』の一環として、「スタディーケーション」の実証実験に本学観光学部教員3名・学生7名が参加し、関係構築を図りました。その後、2022(令和4)年から、観光学部の新たな「地域創生プロジェクト」科目（担当：観光学部・小林 等 准教授）が設置され、以降、古座川町でのフィールド調査・観光戦略プランの提案を含む科目が継続的に開講されています。このプロジェクトに参加する学生は、事前の授業で、古座川町の歴史、現状や課題についての基礎知識を修得し、現地のフィールド調査では、様々な世代・職種の方々との交流を通して地域創生に関する学びを深めています。

コスモス祭 販売品 (2025年実績)



ジビエキーマカレー＆ミニナン、柚かりんとう、柚子胡椒、柚ジャム、
柚茶、柚たれ、ジビエジャーキー、柚ジュース、古座川町産蜂蜜、革製品
古座川ジビエこころうたれるキーマカレー・ボロネーゼ(鹿肉・レトルトパック入り)

2025(令和7)年度 主な交流活動

2025年8月6日	K12サンゴ研究部の生徒4名が町内名所訪問および地域住民との交流会に参加
2025年8月26日	古座川町小学6年生8名が来園し、学内施設見学・サンゴ研究部の生徒と交流に参加
2025年9月1日～5日	「地域創生プロジェクト」を履修の観光学部生が地域関係者との交流および観光まちづくりのための企画立案・発表を実施(古座川町観光協会との取り組み)
2026年2月～3月	大学による公益的事業の推進補助金事業の一環として、工学部、農学部、TAPセンター、教育学部所属の教員が各専門分野に関するプロジェクトを実施

古座川町役場ホームページ

古座川町観光協会ホームページ



2026年10月1日